

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900561
法人名	有限会社介護サービスゆう
事業所名	グループホームゆう
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字奈良3768番地3
自己評価作成日	平成28年9月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・小学校に隣接し毎日元気な子供たちの声を聞きながら生活している。小学生からお花を育ててプレゼントされたり、交流授業や運動会・マラソン大会の応援など小学生との交流が利用者さんの楽しみとなっている。</p> <p>・あんずとすももの間には畑があり季節の野菜が作られている。中庭で収穫した四季折々の野菜で作った食事を楽しんでいる・天気の良い日には中庭のベンチに座って談笑したり歌を歌ったり利用者さんの憩いの場となっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>畑やベンチ等、敷地内に活動スペースを工夫しており、利用者は気軽に戸外に出て過ごしている。献立表を作成するが、家族からの野菜の差し入れや事業所の畑で採れた野菜を利用することも多く、適宜変更している。朝食は、自宅での習慣に合わせてパン食を探り入れている。調査訪問時、昼食に使用するジャガイモの皮むきをしている利用者の様子が見られた。職員も一緒に同じものを食べており、栗ごはんの栗を剥いてくれた利用者との話題で会話をしていた。</p> <p>そうめん流しの外出は恒例となっており、今夏は、利用者の状態を考慮して場所をいつもと変更して全員で出かけた。秋には、離れた場所のさつまいも畑に、芋ほりに行くことが恒例となっている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームゆう

(ユニット名) あんず

記入者(管理者)

氏名 二神和美

評価完了日 28年 9月 13日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) グループホームに関わる法令の意義を理解しており、自らのホームの運営上の方針や目標等に具体化している。「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活を送れるよう支援する」の理念に基づいたケアを実施している。	
			(外部評価) 開設時から「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活を送れるよう支援する」という理念を掲げており、毎月のミーティング時には、「その人らしい生活を送れるよう」な支援について検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校の運動会・交流授業・保育所のお祭りごっこなど子供たちとの交流会や地域の方がボランティアでカラオケショー・読み聞かせ・バルーンアート・楽器演奏など来て頂き交流をはかっている。	
			(外部評価) 隣にある小学校から福祉体験授業の一環として児童の訪問があり、利用者とゲーム等をして交流している。又、運動会やマラソン大会の折には、応援に出かけている。近くの保育所から園児の訪問があり、交流しており、小さな子どもの姿に利用者はたいへん喜ばれるようだ。カラオケや読み聞かせ等のボランティアを受け入れている。	
			さらに、地域行事に参加して地域との交流を深めたり、運営推進会議への参加の働きかけや災害時の相互協力等、地域とともに活動するような取り組みをすすめてほしい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方からの相談を受けたりした時は専門機関につなげたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議等で家族・利用者に直接要望等をお聞きしている。民生委員などに参加して頂き意見を取り入れ、常にサービスの向上に力を入れている。</p> <p>(外部評価) 地域からは、民生委員と、新たに公民館長が参加してくれている。家族については、参加できそうな家族に声かけして協力を得ている。会議時には、事業所から利用者状況、事故報告、研修報告を行い、サービスへの要望や意見を聞いている。会議録を家族に送付している。今後は、地区外民生委員にも声かけをしたいと話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 保健福祉課や地域包括支援センターと連携をとり合い、報告・相談等行っている。</p> <p>(外部評価) 町主催の研修に参加している。今年から医療、保健、福祉関係者の認知症の勉強会(オレンジネット)が始まった。運営推進会議時には、町の担当者から介護保険事業状況報告や感染症情報等の提供がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ミーティングで身体拘束についての研修を実施し全職員に周知徹底し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。個々に応じてやむ負えない場合のみご家族と話し合い同意を得ている</p> <p>(外部評価) ミーティング時、身体拘束についての研修を行った際には、言葉での拘束についても皆で勉強をした。家族の要望があり、夜間のみベッド柵を付け対処しているケースがあるが、職員は1時間ごとに訪室して安全を確認している。夜間トイレに頻回に行く足元のおぼつかない利用者については、センサーマットを使用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで高齢者虐待防止の研修を行ない周知徹底している。 職員は身体の虐待だけでなく精神面での虐待にも注意を払っている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度についてミーティングで勉強会を行った	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い利用者、家族共に理解、納得の上、契約・解約を行っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 4月の家族会や運営推進会議等で家族の意見等をお聞きしている。又面会時等に、不満、苦情、ご希望等があれば、お聞きして運営に反映させている。 (外部評価) 年1回、春の花見会時に、運営推進会議と家族会を合わせて行っており、家族に要望を聞いたり、家族同士で交流する機会になっている。家族来訪時には、利用者の状態を報告して、家族から得た情報は、ミーティングや随時の申し送りで共有している。行事等で撮った写真は、随時家族に送付している。	外部評価時の家族アンケート結果を、今後のサービスに活かしていきたいと考えている。家族の心情を踏まえつつ、利用者の暮らしと一緒に支えていけるような取り組みの工夫を重ねてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティングで意見交換を行っている。また、気づきや提案問題があれば管理者にすぐに報告し、その都度話し合いを行い早めに対応している。	
			(外部評価) 勉強会の年間計画を立てており、毎月のミーティング時に担当職員が中心となり、勉強会を行っている。職員は、施設長や管理者に直接、意見やアイデアを伝えており、「やってみて良かったら採り入れる」ようにしている。新人職員はメールを使って相談することもある。服薬支援について職員で話し合い、誤薬、飲み忘れ等がないように、一つひとつの行動を確認することにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給、昇給、研修費、ボーナス、退職金制度など就業環境を整えてもらっている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会は可能な限り参加している。毎月のミーティングで研修内容を発表報告し、全職員で研鑽に努めている。定期的な自己評価を行い、自分自身を見つめなおす機会を持っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 定期的な他事業所との交流はないが、オレンジネットの学習会に参加し同業者との交流を深め情報を得たり、輪を広げサービスの質の向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に本人の情報を収集し、不安を取り除けるよう、希望をお聞きしている。入所後は本人の様子を観察しながら安心して生活して頂くための支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に家族との話し合いを持ち、詳しくアセスメントを行っている。又何か問題があればその都度話し合いを持ち意見を頂くなど介護者の一部として関わって頂いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			安心と自立した生活が送れるよう、本人、家族、専門機関の意見を聞き、個々に合ったサービスの提供が行えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			職員は人生の先輩である利用者から学ぶ姿勢を心掛けている。また、個々の興味あることを一緒に行うよう努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			家族には利用者の状況をお伝えし、ともに本人を支えるために相談等行っている。又家族が気軽に訪問され、食事、外出泊など心とむひと時を過ごされたりして、交流の機会を大切にしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			入所前の生活歴の情報以外にも本人との関わりの中で本人が大切にしていること、物、人などを知りこちらから言葉に出して交流やその場に行く支援をしている。	
			(外部評価)	
			帰りたい気持ちが強い利用者については、家族と相談して自宅に戻ってみるような機会作りを支援したケースがある。道の駅では家族や知人に会うこともよくあり、買い物等に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者の個性、障害を把握したうえで良い関係が気づけるよう職員が間に入って支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	ここ2年程は退所はない。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	本人、家族等より詳しいアセスメントを行いセンター方式にてその人らしい生活を支援できるよう取り組んでいる。
			(外部評価)	
			利用者についての情報は、口頭での申し送りやノートに記入して情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	本人、家族、関係機関等により、これまでの生活歴や病歴など詳しくアセスメントできるよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や、心身状態の把握を行い、残存機能の維持向上に努めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月モニタリングを行い達成感・満足度を評価している。変更があれば月1回のミーティングで話し合っている。6か月・更新時・必要時にカンファレンスを開催し計画を見直している。</p> <p>(外部評価) 介護保険の更新時や状態変化時のカンファレンスには、家族にも参加してもらい、意見や要望を聞いて介護計画に反映している。遠方の家族には、電話で聞いている。モニタリングは、毎月、職員間で話し合いまとめている。達成度、満足度、考察で評価を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子や、ケアの実施、結果、気づき等を個別記録に記入し、全職員で共有し介護計画に反映している。日々の個別記録以外に個人別にファイルを作り情報が共有できるよう記載している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族・利用者の要望に沿えるよう対応している。利用者が欲しいものがあれば一緒に買い物に出かけたり、いきつけの理・美容院や歯医者、通院・外出時の付き添い、送迎等を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 隣接する小学校との交流会や保育所・地域のボランティアに来てもらったり、行事に参加することもある。又、消防署に協力してもらって防災訓練を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の希望によりかかりつけ医を決定している。又、緊急時は協力医が対応してくれる。</p> <p>(外部評価) 受診は職員が対応しているが、家族が付き添う時には、利用者の現状や生活の様子を記したメモを用意している。車いすが必要になったり、認知症がすすんだ場合は、職員が同行して支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 職場内の看護職員が定期的に身体状況の観察を行っている。利用者に変化があればその都度報告している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 利用者の情報提供を行い、安心した入院生活、又、病院関係者とサービス担当者会議を行い早期退院できるよう情報交換や相談に努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時、看取り指針の契約を行っている。本人、家族の意向に沿えるよう協力医の往診、訪問看護の支援を頂き終末期ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 家族からは「最期まで見てほしい」という希望が多い。この2年間では看取り支援の事例はないが、看取りの時期に入った際には 主治医、家族で方針について話し合っている。看取り支援を不安に思う職員もあり、今後はさらに、必要に応じて研修を実施したいと考えていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急法の講習を定期的に受け緊急時の対処方法を学んでいる。また理学療法士による脳梗塞の早期発見、対応方法を学んだ。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者や施設の状況を考慮し夜間を想定した火災訓練の実施、グループホームあんず、宅老所職員への連絡、連携体制にて、避難、誘導など訓練している。又、グループホーム横に消火栓と新しく消火ホースを部落より購入して頂いた。実際に消防士と地域の方にも来て頂き全職員で訓練を行った (外部評価) 事業所の横に消火栓とホースが整備された際には、消防署の協力を得て、近所の方も参加して使用方法を習った。夜間想定地震訓練を行った際には、職員の行動確認を行った。ミーティング時には、水害時の対応や避難場所について話し合った。備蓄は、隣の法人宅老所とともに、水、おかゆ、缶詰等を準備している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳・プライバシーの保持のための取り組みを行っている。 名前を呼ぶときは名字でお呼びする。尊敬の念を持って優しく敬語で接する。プライドを尊重するなど、ミーティングで接遇マナーの勉強会を行い介護にあたっている。 (外部評価) 職員は個々に、大声で「トイレに行きましょう」と言ったり、利用者の前で「汚れている」「失禁している」等と言わないように注意している。トイレ使用時には、トイレの外で見守ったり、声をかけながらプライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自立に向けての支援を心掛けている。なるべく職員は手を出さず見守りながらさりげない支援を行っている。その人に会った声かけをし、気持ちをお聞きし、常に本人の意思を尊重している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床・就寝・食事時間等個々に決まってはいるがその日の体調により変わることもある。その人らしく暮らしていただけるよう決まりごとはない。日中は草引きや日向ぼっこ、創作活動、レクリエーションなど本人の希望をお聞きし支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて美容室に行かれたり、男性の方には毎日声かけし髭を剃ってさっぱり気持ちよく生活して頂いたり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。利用者本人が洋服など選ぶことが困難な方には声掛けしお聞きして更衣している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 中庭の畑で収穫した野菜を使い調理したり、車椅子や椅子に座って野菜の皮むきをして頂いたり、できることに参加してもらって食事への関心へとつなげている。	
			(外部評価) 献立表を作成するが、家族からの野菜の差し入れや事業所の畑で採れた野菜を利用することも多く、適宜変更している。朝食は、自宅での習慣に合わせてパン食を採り入れている。調査訪問時、昼食に使用するジャガイモの皮むきをしている利用者の様子が見られた。職員も一緒に同じものを食べており、栗ごはんの栗を剥いてくれた利用者と栗の話題で会話をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの食事摂取量を記録し体調管理を行っている。食事量の少ない利用者には声かけし体調を観察している。また脱水を起こさないよう10時・3時・入浴の前後水分補給を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後利用者に合わせた誘導を行い、歯磨き、義歯の手入れ等口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄にこだわり昼はトイレ介助を行いオムツを外している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>トイレの入り口には、大きい字で「トイレ」と書いた紙を貼っている。利用者ごとの排泄パターンを把握し、時間を見て声かけや誘導を行い、排泄できるよう支援している。ポータブルトイレは使用せず、夜間も時間を見ながら声掛けしてトイレで排泄できるよう支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>朝食にヨーグルト、バナナ、繊維質の多い食事や水分の補給また、午前・午後体操も行い便秘予防に気を配っている。排便チェックをし行いそれでも排便がない方には服薬で排便コントロールを行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>希望をお聞きし毎日入られる方や1日おきに入られる方もおられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自分の力で浴槽に入ることが難しくなった利用者には、職員が2人体制で介助している。入浴を拒む利用者には、家族から自宅での入浴の習慣を聞いて参考にしたり、職員が交代して声をかけて支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>体調に合わせてお部屋で横になられたり、生活にリズムをつけたり、状況に応じて対応し、安心できる環境づくりを行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の使用する薬の目的や、副作用、用法や用量を確認し、医師の指示通りに服薬出来るよう支援し、症状の変化を観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お人形がお好きな利用者さんにミニウサギを飼って育ててもらったり個々に合った役割が自然とできている。楽しみを共有しながら個人の趣味など生きがいを感じながら生活している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には中庭に出て気分転換を図っている。欲しいものがあれば一緒に買い物に行ったり、レク外出、そうめん流し、運動会など家族の協力も得ながら個人の希望をできるだけお聞きし外出できるよう支援している。	
			(外部評価) そうめん流しの外出は恒例となっており、今夏は、利用者の状態を考慮して場所をいつもと変更して全員で出かけた。秋には、離れた場所のさつまいも畑に、芋ほりに行くことが恒例となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は職員が管理し必要に応じて一緒に買い物に行ったりしている。自由に使えるお金があることで安心感を得られるよう、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人が希望されればご家族に電話しお話しして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有の空間では利用者が過ごしやすいようソファを置き、開放的でゆっくりできるよう工夫している。季節のお花を飾ったり、壁には季節の飾りを利用者さんと一緒に作ったりして季節を感じながら生活できるよう工夫している。	
			(外部評価) 玄関前には、利用者が自宅から持参したテッセンの鉢植えを飾っている。居間にはテレビ、ソファを設置しており、利用者は、ゆっくり過ごしたり、洗濯物をたたんだりしている。壁には、利用者の名前と誕生日を掲示している。又、行事の写真や利用者が書いた「りんごの歌」の歌詞を貼り出していた。ゲージでウサギを飼っており、利用者が世話をしている。畑やベンチ等、敷地内に活動スペースを工夫しており、利用者は気軽に戸外に出て過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂や居間のソファ、窓際のソファ又、中庭のベンチなど、自由に好きな場所でくつろいで過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家での暮らしの延長を提供出来る様、自宅で使用されていた家具や身の回りの小物などを持って来て頂いて使用している。又、希望をお聞きして畳を敷いている。	
			(外部評価) 居室入口には大きく利用者の名前を貼っている。希望があれば畳を敷いており、自宅から椅子やテレビを持ち込んでいる方もいる。壁には、家族が持参した家族写真や折り紙を貼ったり、中には100歳のお祝いの表彰状と記念写真を飾っている居室もあった。お人形と添い寝すると落ち着くような利用者もあり、職員がお人形の洋服を手作りしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 玄関、ホーム内のバリアフリー化や安全に生活できるよう廊下、トイレ、風呂場、脱衣場の手すりを設置している。トイレにスムーズにいけるよう大きく表示したり、部屋も間違わないよう名前を読みやすく大きめに表示している。	